

ラグビー 海外編

[Bledisloe Cup in Tokyo](#)

[ブレディスローカップ～シドニー\(2010年9月11日\)](#)

[ワールドカップ2011～ニュージーランド](#)

[ブレディスローカップ～オークランド](#)

[2013ラグビーチャンピオンシップ～オークランド](#)

[国歌斉唱～ワラビーズVSフランス](#)

[2015 ラグビーワールドカップ～イングランド \(前編\)](#)

[2015ワールドカップ～イングランド \(後編\)](#)

[2016我が家のラグビーウィーク](#)

[2017～ブリティッシュ&アイリッシュ・ライオンズツアー・ニュージーランド](#)

体感ウェールズ～朱に交われれば赤くなる

夢か真実か、本当にジャパンを応援するためだけに、カーディフ(イギリス・ウェールズ)まで行ってしまった。



1999年10月9日、カーディフの街はカーニバル。ミレニアム・スタジアム周辺の道路から車は締め出され、ウェールズカラーの赤のジャージーと、白と緑のストライプにドラゴンが描かれた旗をマントやスカートとして身につけた人々であふれ、街はラグビー一色に染められていた。



私たちが赤のジャージーを着てスタジアムを目指すと、すれ違う人々がフレンドリーに声をかけてくれる。入場すれば、黒ビール片手に、それぞれの思いを胸に、祖国に誇りを持って、ゲームを待つ純朴な姿。キックオフが近づくにつれて、座席が真っ赤なジャージーでみるみる埋まってくる。列車事故で亡くなった人に捧げる黙祷に続き、両国の国歌を斉唱。赤のジャージーのウェールズに対し、

紺のセカンドジャージーのジャパン。広瀬のキックオフでゲームは始まった。私たちの「ヒロセー！」の叫び声が、スタジアム全体から響き渡るウェールズの声援にかき消される。

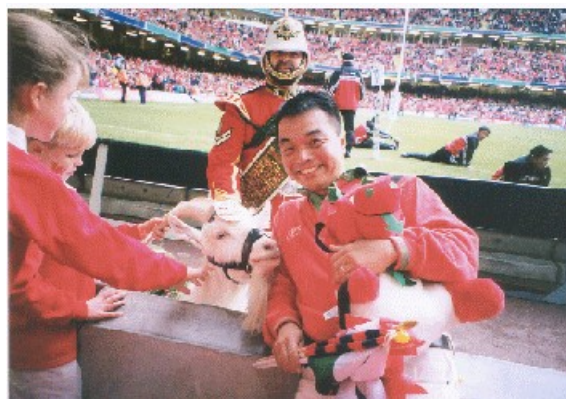


どう考えてもジャパン不利と思っていたのに、ジョセフ、バショップのつなぎの良さで大善戦。おまけに現地の放送で「世界レベルに達する」と絶賛された、サイドラインぎりぎりを抜けた大畑のトライ。広瀬のコンバートもクロスバーの上で跳ねて決まる。ツイドラキのトライなどで、前半を11点差で折り返す。

後半、試合が進むにつれ、赤いジャージーが縦横無尽に走り回り、15対64という実力を見せつけられた結果となりましたが、ジャパンにとっては実りある敗戦となったのではないのでしょうか。

試合中の地元サポーターは、72,500人のウエーブに、地響きのように聞こえる「ブレッド・オブ・ヘブン」の大合唱。そしてニール・ジェンキンスのキックが決まった時は「ナイス・ニール」の黄色の文字盤を上げ、トライシーンのビデオを流すともう一度盛り上がり、交代の時には暖かい拍手で退場する選手を見送る。ノーサイドの笛が吹かれると、大きな声でジャパンを応援していた私たちに声をかけてくれ、握手まで求めてきます。ウェールズの人々は、本当にラグビーが好きで、素直な気持ちで祖国を応援するとともに、相手を思いやる心を忘れない人たちなのです。

朱に交われれば赤くなるということわざのように、ウェールズを体感した私たちも、赤のジャージーを着るだけでなく、彼らのようなハートでラグビーを応援し続けたいと思っています。



ワラタス～シドニー2004

試合は、インジュアリータイム。22mライン際、1点ビハインドでのワラタス、最後の攻撃。ハイランダーズ、懸命のディフェンス。

出足が、少し早いかな～？レフリーの手が、アドバンテージを示す。

密集から出てきたボールは、名手マシュー・バークに渡る。

スーパー12・決勝リーグ進出に向けてのドロップゴール！！

残念ながらボールは右にそれたが、レフリーの笛。先のオフサイドの反則を取りました。

オーストラリア代表・ワラビーズに数々の奇跡を呼び込んだスーパー・ブーツ、マシュー・バークが狙います。決まれば天国、はずせば地獄。最後の最後のワンプレー。このキックが終われば、間違いなくノーサイドです。

ニュー・サウス・ウェールズ・ワラタスの夢を乗せて、楕円形のボールが宙に舞う！！



これは、平成16年ゴールデンウィークのシドニー旅行、オーグスタジアムでのスーパー12・ワラタスVSハイランダーズの公式戦を実況中継風にまとめてみました。

この旅行のテーマは「本場のラグビーをナマで観戦」

結果は、バークが最後のペナルティーゴールをはずして29対28でハイランダーズの勝利で終わりました。前半戦は静かに、後半戦は退場者まで出たのシーソーゲーム。手に汗を握り、最後まで目が離せない好ゲームが繰り広げられ、文字通りの熱戦となりました。おそらく、このシーズン1の名勝負と言っても過言ではありません。もし、バークがこのドロップゴール、または次のペナルティーゴールを決めて、3点が追加されワラタスが勝利していたら、歴史が変わっていたかもしれません。

本場オーストラリアで最高の一戦を目の前で観戦できて、歴史上の証人となれたことを光栄に思うと共に、幸福な気持ちでいっぱいになりました。ほんと、ラグビーは面白いですね。



ワラタス～シドニー2005

マット・ロジャース、クリス・ウィタカー、フィル・ウォーにローテ・トゥキリ。オーストラリアを代表する選手がひしめくワラタスの最大の弱点は、レッズに勝てない事。



まず、スーパー12とは、オーストラリア、ニュージーランド、南アフリカの南半球の3カ国の12のチームが総当りで対戦し、順位確定後、上位4チームがトーナメントで戦うラグビーのリーグ戦で、1996年から開幕し、2006年に2チームが加わりスーパー14として人気を誇っています。2006年現在の記録によると、ニュージーランドの南島クライストチャーチに本拠を置くクルセイダーズが6回、北島オークランドに本拠を置くブルーズ3回、オーストラリア勢では、キャンベラ本拠のブランビーズが2回優勝しています。

ワラタスは、シドニー本拠、レッズはブリスベン本拠で、ここ数年はワラタスが上位につけながら、なぜかレッズに勝てないというジンクスが生き続けていました。2004年ハイランダーズ戦で敗戦して、決勝リーグ進出を逃したワラタスは、翌週のレッズ戦も7対23で連敗。



2005年、ここまで9回対戦し8敗1引き分けと絶対的不利な状況で迎えた5月6日、シドニー・オージースタジアムで、10度目の正直(?)の戦いが繰り広げられました。このシーズンのワラタスは絶好調。クルセイダーズと同率の首位で、今年こそは・・の機運が高まり、公称四万二千五百人収容のスタジアムは、ブルーのワラタスのユニホームを着たサポーターで超満員。

お代官様夫婦も、ブルーのジャージで、世紀の一戦に備えて旅行会社にツアーを予約するより先に、インターネットで購入したチケットを持って席に着きます。今回の座席は、ピッチに手が届き選手の表情が見えるほどの距離で、「ピーター・ヒューアット男前！ マット・ダニング横にでかい！」などとミーハーしていました。

前半戦は、ペナルティーゴールだけの玄人好みの緊迫した展開で、9対3とワラタスがリード。後半戦も、初めは好調ヒューアットのキックがさえ、得点を重ねる。終盤は、スクラム、ラインアウトとセットプレーで圧倒し、トゥキリ、ヒューアットの歴史の呪縛を解き放つ二つのトライで、最終スコアは27対8。この日、レッズから記念すべきスーパー12初勝利をものにしました。苦節10年。フルバックのマット・ロジャースも大はしゃぎ。

二年連続、オージースタジアムで、凄い試合を観戦できた・・と感動。やっぱ、ラグビーは面白いですね。



リーグラグビー～シドニー2007

今年のゴールデンウィークは、ラグビー観戦。シドニー近郊のカールトンのオキジュビリー競技場にてドラゴンズ対パンサーズ戦、パラマッタでは、イールズ対ルースターズの2試合のチケットをインターネットで手配してラグビー好きのオージー気分を満喫してきました。



オーストラリアでは、日本でも見られる15人制のユニオンラグビーだけでなく、今回観戦したNRLと呼ばれるリーグラグビーも人気があります。1チーム13人で、ラックやモールなどの密着プレーが排除され、スクラムを押しこともなく、タックルで倒された場所をポイントにして(このセットプレーをプレーザボールと呼ぶ)6回の攻撃でトライを奪い合うという試合展開が速く運動量の多いゲームです。

“相手ボールを奪う～タックルを受ける～ダウン～プレーザボールで再開～走る～パス～タックル～ダウン～プレーザボール”という流れで、5回目のダウン(レフリーがこれを宣言します)後のプレーザボールから最後の攻撃で、これでトライやドロップゴールができなければ、相手にボールを渡さなければならないというルールで、アメフト感覚の展開の速いランニングラグビーが繰り広げられます。



このラグビーの魅力は、ピッチだけでなく観客席も熱いこと。鼻根チームのウェアを着てビール片手に大騒ぎって感じで、日本の阪神タイガースや浦和レッズもびっくりのお祭り騒ぎ。試合開催に先立ち、バックスタンド後方から花火が打ち上げられ、アウエー側が入場すれば、スタンド全体からのブーイング。続いてホーム側が入場すれば、拍手とコールがこだまする。キックオフからバックスタンドは立ちっぱなしで、大きな旗を振り回して、鳴り物入りでの大声援。トライを奪えば、スタンドが揺れるほどの歓喜の嵐。熱いぞ！オージーは。



NRL (National Rugby League) は、16チーム総あたりのホーム&アウェー方式で、3月から半年間、ほぼ毎週末に試合が開催されます。日本のプロ野球かサッカーみたいなもので、昨年の優勝は、クイーンズランド州ブリスベン・ホームの“ブロンコス”でした。負け続けるチームを応援するオージーオヤジに言わせりゃ・・・「順位なんて関係ないさ！オイラこのチームが好きだけさ！」ホント、こんな純粋なオヤジを尊敬すると共に、そんなハートでラグビーを応援し続けたいと思ったお代官様でした。



もしも、シドニーに旅行する機会があれば、一度こんなスタジアムを覗いてみて下さい。もっと、オーストラリアを体感できるはず。

Back

[戻る](#)



[Bledisloe Cup in Tokyo](#)